

岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想の概要

1 地域の特徴 ～ 飛騨山脈に育まれた大自然・温泉・食・文化 ～

【国内・世界に誇る「強み」】

- ・乗鞍スカイラインを利用して、誰でも交通機関で行ける国内最高所（標高2,702m）の「乗鞍畳平」を訪れ、貴重で雄大な大自然を満喫することができる。
- ・山麓には、露天風呂数全国第1位の「奥飛騨温泉郷」が広がり、大自然が広がる非日常的な空間の中で、癒し・やすらぎが得られる。

白山山頂と
同じ標高

(1) 国立公園の大自然

《豊かな自然、手軽な高山帯へのアクセス環境》

- ・変化に富んだ山岳景観（急峻な槍・穂高連峰と広大な乗鞍岳）
- ・高山帯の貴重な動植物（ライチョウや高山植物）
- ・山麓に広がる豊かな森や水（五色ヶ原の森や平湯大滝）
- ・高山帯への容易なアクセス（乗鞍スカイラインや新穂高ロープウェイ）

《多様な利用が可能》

- ・登山、トレッキング（初級者でも3千m級まで登山が可能）
- ・自然観察（ライチョウや高山植物、星空の観察）
- ・学術研究（生態系・地球温暖化・宇宙線・火山・砂防等）

《先進的な自然環境保全》

- ・日本初の環境保全に特化した目的税の創設（乗鞍岳）
- ・日本初のガイド付き入山を義務化した五色ヶ原の森



乗鞍岳とスカイライン



平湯温泉とアカンダナ山
(大自然の中の温泉郷)

(2) 奥飛騨の温泉

- ・露天風呂数国内第1位、湧泉量国内第3位の豊かな温泉地・奥飛騨温泉郷
- ・多彩な山岳景観（笠ヶ岳、焼岳、槍・穂高連峰など）や秘境の風情を楽しむことができる

この地域の「日本一・日本初」

- ・乗鞍岳
交通機関で行ける日本一高い場所
- ・奥飛騨温泉郷
日本一の露天風呂数
- ・新穂高ロープウェイ
日本唯一の2階建てロープウェイ
- ・先進的な環境保護
日本初の環境保全に特化した目的税（乗鞍岳）
日本初のガイド付き入山を義務化した五色ヶ原の森



ライチョウ(夏)

(3) 飛騨地方の食や文化

- ・山々と温泉に恵まれた食文化（飛騨牛、朴葉味噌、飛騨の山椒、高冷地野菜など）
- ・山麓で育まれた文化と伝承（鶏芸や獅子舞などの祭礼行事、数多く残る円空仏）
- ・山岳にまつわる伝承と歴史



朴葉味噌と飛騨牛



奥飛騨温泉郷

2 利用の現状

- ・中部山岳国立公園（岐阜県側）の訪問者数が、平成23年以降減少。
- ・「高山市街地」、「白川郷合掌集落」や「飛騨市（神岡町）で行われているレールマウンテンバイク」は、観光客を増やしている。

<平成27年の入込客の状況>

レールマウンテンバイク
(飛騨市神岡町)
約4万人
(H25比 +60%増)

奥飛騨温泉郷(全体)
約56万人(H22比 -15%)

白川郷合掌集落
約161万人
(H22比 +8%増)

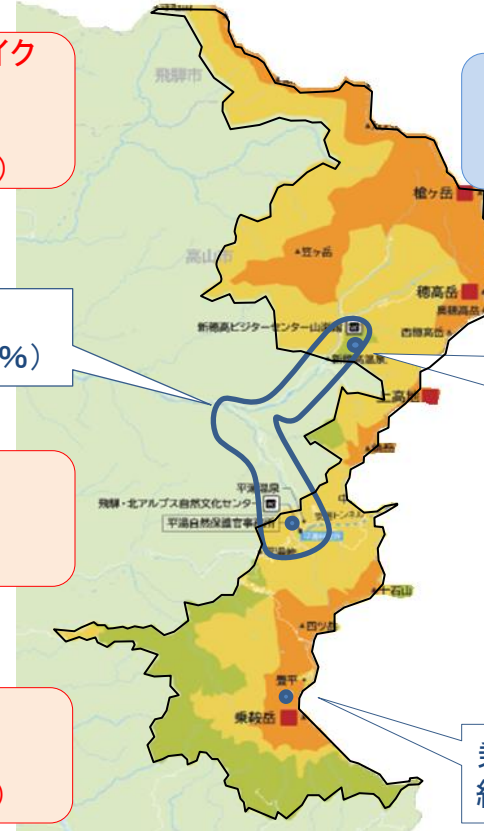
高山市街地
約346万人
(H22比 +41%増)

中部山岳国立公園
約96万人
(H22比 -25%減)

新穂高ロープウェイ
約31万人
(H22比 -21%)

(参考)上高地
約124万人
(H22比 -13%)

乗鞍岳
約12万人(H22比 -40%)



出典：岐阜県観光統計、長野県観光統計

3 活性化に向けた課題

- (1) 地域の強み（資源）に対する認識が十分でなく、強み（自然と温泉、自然と文化など）同士の連携や情報発信が不足
- (2) 国立公園内の玄関口となる総合利用拠点が不足
- (3) 雨（曇り）の日や冬季にも楽しむことができる「飛騨ならではの楽しみ方」づくりが必要
- (4) 高齢者・障がいのある方、訪日外国人など、誰もが訪れ、楽しむための受入態勢が不十分
- (5) 国立公園内の既存施設（トイレ・看板等）が老朽化
- (6) 自然と地域を守り、伝えていくための担い手の育成が必要

4 コンセプト

「誰でも体験できる3,000m級の高山帯、飛騨人^{ひたびと}のもてなしと露天風呂めぐり」

この地域の魅力を発掘し、磨き上げるとともに、この地域の良さを知り、多くの方々にこの地域を訪れていただくために、次の取組みを進めていきます。

5 取組方針

【方針1】豊かな地域の資源を「知る」

- 豊かな地域の魅力を知り、誇りを醸成

＜取組例＞

- 地域の人々が乗鞍・奥飛騨の魅力を知り、伝え、誇りを持つ機会の創出
- 地域の人々が訪問者に魅力を語れる場づくり

笠ヶ岳とロープウェー 奥飛騨温泉郷 平湯大滝結氷祭



- 飛騨山脈の「大地と自然の恵み」を学ぶ

＜取組例＞

- ジオパークの取組推進と自然環境教育拠点の整備
- 学習旅行等の誘致・受入態勢づくり

自然環境学習 かまくらづくり体験 高山植物(コマクサ)



【方針2】強みを活かし魅力・活力を「創る」

- 「乗鞍・奥飛騨ならではの魅力」の発掘・磨き上げ・発信

＜取組例＞

- 自然、温泉、食を活かした地域の魅力の向上
- 「乗鞍・奥飛騨の楽しみ方」の仕組み作り・発信
- 国立公園の情報発信拠点の整備
- 上質な滞在空間の提供
- 安全安心な登山環境づくり



- 持続的な活力の創出

＜取組例＞

- ガイドが活躍できる体制づくり
- 利用者受入態勢の整備
(多言語表記、Wi-Fi、バリアフリー、ツアーデスク等)



【方針3】乗鞍・奥飛騨らしさを守り、後世に「伝える」

- 自然の保護と利用の両立

＜取組例＞

- 先進的な環境保全対策の継続・進化
- 人数を限定したガイド付ツアーによる自然体験
- 利用マナーの啓発や情報提供のための拠点整備
- 景観や生態系に配慮した自然公園施設づくり



- 乗鞍・奥飛騨の魅力を守り伝える人づくり

＜取組例＞

- 質の高いガイド（自然・地質・登山等）の育成
- 大学生や高校生等に対するガイド体験学習会
- 小中学生の環境意識向上、学習旅行の場の創出(再掲)



6 関係団体と連携した取組の推進

国、県、高山市、地元観光協会、民間企業、地元各種団体等と連携、飛騨市、白川村、隣接する長野県松本市(上高地、乗鞍高原)との連携、中部山岳国立公園関係県である新潟県、富山県、長野県、その他国立公園の活性化を志す各種団体と連携

基本計画の策定

県・市・地域の関係団体が実行
する内容を持ちより策定

計画の実行

団体間の連携を図り、
各団体が主体的に取り組む

進捗管理と見直し

毎年、取り組みを評価検証し、
改善を進める

1 計画の目的

本計画は、本年7月に策定した「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想」を具体化し、関係機関・団体等が一体となって、中部山岳国立公園（周辺地域を含む）の活性化を図ることを目的として、策定するものである。

2 計画の概要

(注) 本計画策定時点で、新たな元号が制定されていないため、皇位継承の予定日以降の年表記も「平成」を用い、西暦と併記。

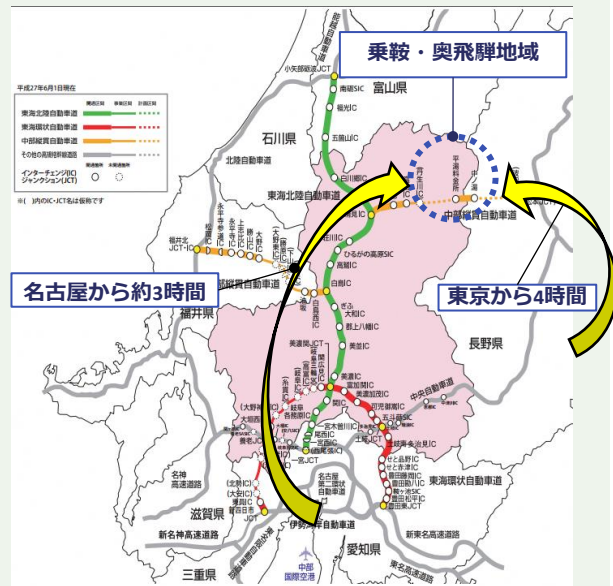
(1) 対象地域

対象地域は、中部山岳国立公園、乗鞍山麓及び奥飛騨温泉郷とする。



(2) 計画の期間

計画は平成30（2018）年度から平成34（2022）年度までの5年間とする（注）。



(3) 計画の位置付け

- 本計画は、岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想を具体化するものである。
- 中部山岳国立公園南部地域管理計画書（環境省）、岐阜県環境基本計画、岐阜県成長・雇用戦略2017、清流の国ぎふ創生総合戦略（岐阜県）、高山市まち・ひと・しごと創生総合戦略、飛騨高山ブランド戦略（高山市）等の国・県・市の関連計画との整合性を図るものとする。

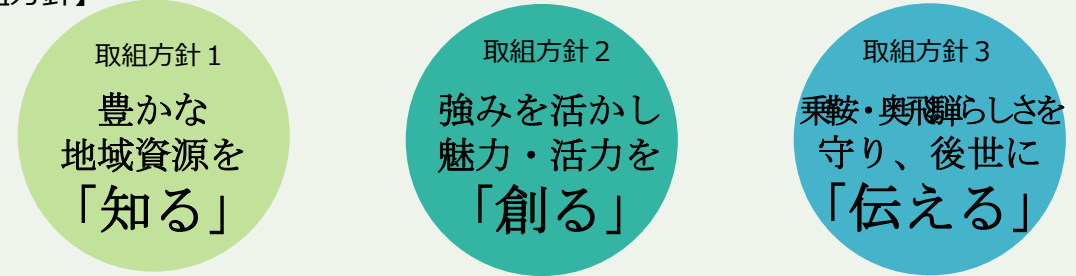
3 目指すべき姿

(1) 基本構想のコンセプト・取組方針

【コンセプト】

「誰でも体験できる3,000m級の高山帯、
飛騨人のもてなしと露天風呂めぐり」

【取組方針】



(2) 目指すべき姿

関係者が一体となって、地域の魅力を磨き、発信する取組みを継続的に進めるため、中長期的に目指すべき姿を、次のとおり設定。

地域の人々が誇りをもって暮らし、語る事ができる、持続可能な地域となること

地域の魅力に惹かれた人々が国内外から集い、滞在・交流する地域となること

地域の人々とこの地域を愛する人々によって、かけがえない大自然が持続的に維持され、我が国の豊かな自然環境を代表する場所として認知される地域となること

(3) 取組みの指標

- 「入込客数（国内・国外）」
- 「旅行消費額」
- 「滞在者の満足度」
- 「リピーター率」
- 「環境教育等の利用者数（環境教育、ガイドツアー等利用者数）」
- 「自然系ガイド数」
- 「参加型環境保全活動等への参加者数」
- 「環境保全状況（乗鞍岳）」

4 計画の推進

(1) 計画の実行、進捗状況の管理

- 国、県、高山市、関係団体は、相互に連携を図りながら、この計画の取組みを着実に実行する。
- 取組状況は、毎年、行政機関と関係団体等を構成員として設置する協議会において、評価と検証を行い、必要な見直しを行う。

(2) 広域連携

- 中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会の場等を通じた長野県・関係団体等との連携
- 国や他の中部山岳国立公園構成県（富山県・新潟県）等との協調による発信力強化、ブランドイメージ向上

5 具体的な施策

取組みの実施に当たっては、行政機関、民間団体、地域住民が連携して進める必要があることから、意見交換等を通じて丁寧に意思疎通を図りながら推進する。

取組方針

1 豊かな地域資源を「知る」

1-1 豊かな地域の魅力を知り、誇りを醸成

○豊かな自然を知り、誇りを醸成する経験機会の創出

- ・ 魅力を体感し、誇りを育むガイドツアーの開催
- ・ 地域の住民と訪問者が魅力を語り合う機会の創出 等
【県・市・団体：H30～】



乗鞍山麓 五色ヶ原の森

○飛騨山脈ジオパーク構想の取組推進

- ・ ジオパーク構想の取組推進
- ・ 学習プログラムの構築
- ・ 学習会等の開催
- ・ ジオパークガイドの育成
【市・団体：H30～】

1-2 飛騨山脈の「大地と自然の恵み」を学ぶ

○大学や研究機関との連携交流

- ・ 宇宙線や天体の観測研究（東大・京大）、地震、砂防（京大）など、公園内や周辺の観測・研究施設との連携交流の促進
- ・ ビジターセンター等における研究成果の展示 等
【県・市・団体：H30～】



乗鞍スカイライン

○環境教育の推進

- ・ 乗鞍岳（畳平～剣ヶ峰、五色ヶ原）をフィールドとする環境教育プログラム（副教材）を作成
- ・ 現地学習の促進のための助成制度の構築、教育旅行の誘致
- ・ 温泉等の多様な資源を活かした総合的な環境教育プログラム構築 等
【県・市・団体：H30～】



ぎふ清流未来会議開催の様子

取組方針

2 強みを活かし魅力・活力を「創る」

2-1 乗鞍・奥飛騨の魅力の発掘・磨き上げ・発信

○魅力ある体験プログラムの造成

- ・ 乗鞍山頂域の大自然、ライチョウ、標高2000mの星空などの特徴的な資源を生かしたツアーの造成
【県・市・団体：H30～】



ライチョウ（夏）

○ONSEN・ガストロノミーツーリズムの推進 【県・市・団体：H30～】

○「誰でも容易に到達できる日本最高所」の進化

- ・ 外国人、高齢者、障がい者、子育て世代等に配慮した施設、案内体制の整備 【国・県・市：H30～】

○最先端の情報技術を利用したアプリケーションの開発研究（IAMASとの共同開発） 【県：H30～H33】

○温泉地の賑わいづくり

- ・ 誘客イベントの開催
- ・ 温泉を活かした滞在プログラムづくり等 【団体：H30～】

○安全・安心な登山環境づくり

- ・ 登山者への情報提供、新穂高地区駐車場対策、火山防災対策
【県・市・団体：H30～】

○景観の改善の検討【市】

○二次交通の充実【市・事業者：H30～】



奥飛騨温泉郷

2-2 持続的な活力の創出

○高山市街地と国立公園のシームレス化

- ・ 観光案内拠点間における情報の相互提供
- ・ ロングトレイル、サイクリングルートの開発の検討 等
【県・市・団体：H31～】

○人材の交流、活躍の場づくり【県・市・団体：H30～】

- ・ 大学のフィールド研究等の研究教育活動の受入
- ・ ビジターセンターの安定した運営に向けた体制構築 等

取組方針

3 乗鞍・奥飛騨らしさを守り、後世に「伝える」

3-1 自然の保護と利用の両立

○国立公園利用拠点の整備

- ・ 総合窓口となるビジターセンターの整備
【県：H30～】



乗鞍岳

○乗鞍岳の環境保全対策の進化

- ・ これまでの環境保全施策の効果（植生回復、ライチョウの安定的生息等）のPRとブランド化
- ・ 自動車利用のあり方の継続的な検討
【県・市・団体：H30～】



乗鞍スカイライン EVレンタカー実証実験事業（乗鞍自動車利用適正化協議会）

○快適な自然公園施設の整備

- ・ トイレの洋式化
- ・ 案内標識多言語化、デザイン統一化
【国・県・市：H30～】

3-2 乗鞍・奥飛騨の魅力を守り伝える人づくり

○質の高いガイド人材の育成

- ・ レベルに応じた自然系ガイドの育成、ガイドプログラムの作成
- ・ 外国人ガイドの活躍の場の確保と多言語対応が可能な日本人ガイドの育成 等
【県・市・団体：H30～】



乗鞍美化の会による外来植物除去作業

○参加型の環境保全・登山道整備の推進

- ・ 参加型の外来種駆除活動や登山道補修活動の取組み
（例）平湯観光協会の登山道補修 乗鞍美化の会の外来種除去
【市・団体：H30～】

イメージ戦略の構築と情報発信・プロモーション

○誰が聞いてもイメージできる愛称（日本語・英語）やロゴマーク等、統一的な地域イメージの形成に向けた取組み

○訪問客の属性や嗜好等のニーズの継続的な把握

○ニーズに即して、的確な情報発信を行うとともに、積極的なプロモーションを推進。（例）SNS活用、登山・アウトドア関係企業等と連携したキャンペーン、海外旅行会社を招聘したモニターツアーなど

岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会の概要

【協議会の目的】

- 岐阜県内の中部山岳国立公園及び周辺地域の活性化のため、「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画」に基づく取り組みを、地域一体となって推進する連携の拠点として設置。
- 関係者が課題を共有し、その対応について具体的な活動を行うことを促すために、検討会、勉強会、試行事業の共催や後援を行う。
- 関係者間の繋がりを深めるとともに、事業実施によるノウハウ取得や人材育成を支援し、地域が自立して継続的に活性化の取組を行う体制を構築。

【協議会の体制】

会長 高山市長
副会長 岐阜県環境生活部長

○総会

有識者（顧問）
地元関係団体の長（委員）
行政機関の長（委員）

○幹事会・部会

構成団体の事務局、実務者
幹事長 岐阜県
副幹事長 高山市

○事務局

高山市 事務局長（会計）
岐阜県 副事務局長（総会・幹事会の開催）
※協議会運営・事業活動は共同して行う
【活動費】県・市 各1/2

〈構成員〉

- ・高山商工会議所
- ・飛騨・高山コンベンション協会
- ・奥飛騨温泉郷観光協会
- ・飛騨高山大学連携センター
- ・飛騨乗鞍観光協会
- ・乗鞍観光協議会
- ・濃飛乗合自動車(株)
- ・奥飛観光開発(株)
- ・乗鞍国際観光(株)
- ・飛騨山脈ジオパーク推進協議会
- ・中部山岳国立公園管理事務所
- ・飛騨森林管理署
- ・岐阜県
- ・高山市

【協議会の活動】

○総会：基本計画に基づく取り組みの推進に関する協議、調整（進捗管理）

- ・協議会事業計画の承認
- ・事業実績報告
- ・予算、決算の承認
- ・事業活動の結果を踏まえた意見交換
- ・各団体の情報提供

○幹事会・部会：具体的な課題の協議、活動（基本計画における想定事業）

協議

- 中部山岳国立公園南部地域推進協議会（環境省）のWG活動展開
- 各地域の課題の共有、活性化策を関係者で総括的に協議
- 県施設改修（ビジターセンター再開）や奥飛騨活性化基本構想の検討 等

活動

- 幹事会で協議した課題対応、活性化策の具体的事業の実施
 - ・地域環境等を活用したアクティビティの造成・試行
 - 自然体験ガイドツアー実施、環境学習の推進・遠足・研修の誘致
 - 飛騨山脈ジオパーク、乗鞍エコツーリズム推進法認定取得の推進
 - ・地域内の周遊性造成事業（ハード、ソフト）
 - 移動手段の造成、周遊ルート開発、見どころポイントの整備
 - ・魅力発信プロモーション（知名度向上・ブランド化）
 - ONSENガストロノミー、誘客イベント 等

外部団体（民間・協会・大学等）との連携（応援パートナー募集）